

ご近所探訪 (赤坂・青山の散歩道)

明治記念館



今回は緑豊かな明治神宮外苑の一角に佇む歴史ある明治記念館の総合企画課、中川さんにお話を伺いました。

明治 14 年、当時の赤坂仮皇居の御会食所（日本初の迎賓館）として今の迎賓館のある場所に建てられたのが、憲法記念館・明治記念館本館です。明治 21 年、大日本帝国憲法草案審議の御前会議が行われた会場は「金鶏」として明治記念館本館内に今もなおその姿を残しています。昭和 22 年には明治神宮の総合結婚式場として開館。令和 2 年 3 月には明治記念館本館が東京都指定有形文化財に指定されました。今年（令和 6 年）11 月 1 日には開館 77 周年を迎え、館内の一部リニューアルを予定しています。また、約 1,000 坪の庭園にはおよそ 2,000 本、50 種類の樹木が生い茂り、緑豊かで静謐な空間が広がります。館内の庭園を臨む儀式殿では現代に溶け込んだウエディングスタイルをご提供しております。祝宴の場として利用されることも多いですが、館内のレストランではお気軽にランチやディナーを楽しんでいただくことができ、駐車場(無料)もございます。大好評のいちごのアフタヌーンティーは5月6日まで開催中です。なお、ペストリーショップではケーキやクッキー等オリジナル商品をご購入いただけます。皆様のご利用を心よりお待ちしております。

明治記念館では職員の方々が救命講習に積極的に参加され、令和 5 年度自衛消防訓練審査会においては 1 号消火栓 A グループ優勝を果たされました。3 月 11 日には防災訓練が行われるなど日頃の防火防災に努めておられます。

◆ ペット紹介

赤坂消防団第 2 分団
副分団長 七戸 じゅん

昨年夏、我が家に新しい家族を迎えました。名前はアーニャ、トイプードル男の子です。親ばか丸出しになりますが、すべてのしぐさがとにかく可愛く、今やアーニャ中心の生活になっています。アーニャは、犬も人も大好き！しっぽをちぎれそうになるくらい大きく振りながら、人や犬に近寄って行きます。かと思えば、家族には、”塩対応”!! 帰宅時、アーニャの大歓迎を期待している家族に対しては、じっとおすまし顔。(大泣) すっかり、アーニャのペースにはまっている日々です。



◆ ちょっと Break time



赤坂消防団第 1 分団
団員 関根 章子

年明けに買った小さなさくらんぼの木が、ひな祭りの頃には、手のひらいっぱい満開の花を咲かせてくれました。さくらんぼ、「チェリー」といえば、「君を忘れない」と歌うスピッツの「チェリー」です。米津玄師の「パプリカ」を聞いた時、ふと同じ空気を感じました。「さくら(チェリー)」「パプリカ」の花言葉や、それぞれの歌詞は通じ合い、「パプリカ」は東京オリンピック・復興の応援歌、「チェリー」は阪神淡路大震災の翌年の歌です。どちらの曲も被災者の方への想いが込められているのかなと思いました。私も消防団員としてできることを、少しずつ取り組んで行きたいと思っています。



編集室だより

春は出会いと別れの季節。今号から第 1 分団関根章子団員にハイドラント編集を手伝って頂く事になりました。そして小堀編集長が団長就任に伴い今号をもって編集長から退く事に…編集長の「ユーモアを交えた読み易い文章もハイドラントに取り入れよう」との言葉を心に刻み編集員一同、これからは頑張る所存です。

HYDRANT

編集委員 (本団) 小堀章 (編集長)・荳司洋行・萩原雅子、(第 1 分団) 三田旭・関根章子、(第 2 分団) 鎌田康平・川崎明美、(第 3 分団) 西川弘倫・大島隆大、(友の会) 江田義久



HYDRANT
赤坂消防団

vol.36

令和 6 年 4 月発行
赤坂消防団広報委員会
東京都港区南青山二丁目 16 番 9 号
赤坂消防団本部

★ 赤坂消防団長挨拶 小堀 章 (こぼり あきら)



令和 6 年 4 月 1 日付で赤坂消防団長に任命された小堀章と申します。昭和 57 年に赤坂消防団に入団して、42 年間を消防団員として関わってまいりました。

本年は元旦から能登地方で地震があり、大災害が発生しました。いざと言う時の為にも団員一人一人がそれぞれのスキルを磨き、赤坂・青山の安全安心の為に貢献出来る消防団を目指し又赤坂消防署と連携して、取り組んでまいりたいと思います。

★ 赤坂消防団始式

令和 6 年 1 月 21 日 (日) 赤坂区民センターホールにて、赤坂消防団始式が挙行されました。消防団始式は消防団員にとって 1 年の始まりと 1 年の決意を実感させ身の引き締まる思いがします。コロナ騒ぎで中止になった年もありましたが、通常は必ず毎年行われる行事です。年度により多少の違いはありますが、国会議員、都議会議員、港区長、港区議会議員、港区議会議員、友の会、その他多くの方々のご臨席を賜りました。またご来賓の方々のお言葉ご助言により、今年元旦に起こった突然の大災害が頭を過り、消防団員として責任の重さを痛感します。



毎年、その前年に努力をした、あるいは功績のあった消防団員が表彰されますが、団員にとって一年間の努力が報われる瞬間です。

赤坂・青山の管轄地区において、小さな火災などがありますが、大火災などの大惨事は殆ど無く、これは赤坂消防署をはじめ赤坂消防団そして地域の皆様の努力の賜物であると思います。今年元旦に北陸地方で大地震が起こりましたが、災害は正月であろうと、いつ発生するかわかりませんので、自分の町は自分自身で守るという意識が消防団員には強く求められています。

赤坂消防団では新入団員を募集しています



年齢 18 歳以上の方
(大学生・専門学校生も可能)
心身ともに健康な方
赤坂消防団の区域内に居住、
勤務、通学している方



問合せ先電子メール
アドレス



赤坂消防団
ホームページ

問合せ先

赤坂消防署内 消防団事務局
☎03-3478-0119

◆港区内消防団点検

令和5年10月29日(日)都立芝公園にて港区内の4消防団(赤坂消防団、麻布消防団、芝消防団、高輪消防団)が参加する「港区内消防団点検」が開催されました。

各消防団の部隊検閲や活動紹介が行われ、その後は災害時を想定した放水訓練、救護訓練が4消防団合同で実施され、日々の訓練の成果を披露しました。



◆港区総合防災訓練

令和5年11月5日(日)港区立青山中学校において港区総合防災訓練が開催されました。赤坂消防団は、赤坂消防署と協力の上、初期消火訓練、煙体験、起震車体験、防火衣着体験や応急救護訓練などにおいて区民の皆様へ指導を行い、参加者の防災意識の向上に大きく寄与することとなりました。防災訓練などを通じて普段から訓練を行うことが、災害への最大の備えにつながります。赤坂消防団は、今後も地域の防災力向上のために全力を尽くしてまいります。



◆赤坂消防団第1分団紹介

赤坂消防団第1分団は赤坂消防署と緊密に連携をとりながら防火防災活動に取り組んでおります。担当地区は元赤坂1丁目、赤坂1丁目から6丁目、虎ノ門2丁目の一部です。特に飲食店がひしめく繁華街を受けもっているため防火防災の意識を強く持ちながら取り組んでおります。第1分団は本業の傍ら地域の安全と安心を守るために女性5名を含む31名の団員が活動し、消防力、防災力の向上に努めています。第1分団は上下関係や古い慣習にとらわれず、定期的な懇親会を通じてコミュニケーションを図っています。年間を通じて一番中心となる活動は5月に開催されるポンプ操法大会出場に向けた操法訓練です。赤坂中学校と東京ミッドタウンのご協力の下、東京ミッドタウン遊歩道にて精力的に訓練に取り組んでいます。大会で上位を狙うことも大事ですが、何よりも大切なことは訓練を通じて防火技術を身に付けることです。未曾有の大災害がいつ発生するかわかりません。日頃から防火防災力を身につけるために団員一同結集し「我が町は自分達で守る」という気概を持ち精進してまいります。



消防団の活動紹介 消防団員は、赤坂・青山の安全・安心のため日夜訓練に励んでおります。

◆赤坂サカス防災フェス2023

令和5年11月18日(土)、19日(日)TBS放送センター前「赤坂サカス広場」において、港区とTBSの共催、そして東京消防庁・赤坂消防署の特別協力により、防災フェスが開催されました。関東大震災から100年を機にその教訓の継承と防災を考える日になるようにとの願いを込めて開催され、2日間で12,746人の参加者が防災について楽しく学べる有意義な機会となりました。はしご車搭乗、VR防災体験車、起震車、初期消火、ミニ防火衣着体験など、どのコーナーも列をなす人気となり、消防団員は参加者の安全確保や指導などを行いました。



◆港区消防団交流促進事業

令和6年2月10日(土)日の出栈橋水上バス乗り場に赤坂消防団・麻布消防団の団員と、日頃から消防団員の活動を支援しているご家族の皆様が集まりました。消防団員は、災害時の対応はもちろん、災害が起きた時の為に普段から地域の防火防災に関わる訓練や啓発活動、祭りやイベントの警戒など様々な活動をしております。日頃の厳しい活動だけではなく、消防団交流促進事業として水上バスに乗船し、夜景を眺ながら楽しいひと時を家族も一緒に過ごせる交流会!当日、開会の挨拶には多忙な公務の中、武井雅昭港区長が駆けつけて下さいました。各消防署長からもご挨拶頂き、参加の子供達もジュースや烏龍茶で乾杯!18時45分に出航。乗船コースは、日の出栈橋~レインボーブリッジ~お台場海浜公園~豊洲方面~日の出栈橋、乗船時間:約120分のナイトクルーズを、日頃から一緒に活動している消防団員の皆様だけでなく、ご家族の皆様とも一緒に楽しむ事が出来ました。また次回の消防団交流促進事業を楽しみに、家族に支えて頂きながら日々の訓練や活動に励んでまいります。



◆年末年始消防特別警戒激励

年末年始を迎えるにあたり、初詣参拝客等による多くの人出が予想され、通行障害による消防活動への影響等が危惧されます。このことを踏まえ、赤坂消防団は、赤坂消防署と連携し、災害の未然防止と情報収集の強化を図るため消防特別警戒を実施しました。12月28日には、団本部及び各分団本部において港区長、東京都議会議員等から激励をいただきました。

